

海外短信



— 台湾 —

台湾 人気の「行天宮」レポート

～ 日本ピラー工業㈱ ～



台湾の人気スポット“土地宮”の風景

日本ピラー工業㈱の台湾現地法人“台湾ピラー工業”よりレポートします。
 当社は、半導体関連製品の販売と高架橋等に使用される支承の設計・製造・販売をしております。特に支承製品は、営業運転中の台湾高速鉄道（新幹線・総距離345キロ）や国際空港より台北市内へ施工中の高速モノレール高架橋等に採用されております。

台湾は、日本の九州とほぼ同じ面積の島国であり約2300万人の台湾人が生活しています。ここ数年中国本土より多くの観光客が訪れ、憧れの“宝の国”とも呼ばれています。

高層ビルが連なりスーツ姿の忙しい人々が行き交う街中には、幾つもの寺院や地元の神様を祭る“土地宮”が無数にあります。今回はその中でも商売熱心な台湾の人々に人気の“行天宮”を紹介します。

行天宮は数あるお寺の中でも特に人気があり、境内はお線香の煙に包まれています。その理由をご本尊が商売の神様である「関聖帝君」であることが挙げられます。関聖帝君とは、三国志でおなじみの関羽雲張のこと。真っ赤な顔と、黒くて長いヒゲが特徴です。では何故関羽雲張？
 諸説ありますが、有名な武将であると同時に商売に必要なそろばんや簿記の発明者と考えられていることが有力な説であります。

参拝方法ですが、入場したら、青い法衣を着た女性からお線香をいただき、火をつけ、まずは境内後方の香炉に線香をお供え。女性は右手、男性は左手でお線香を供えるのがマナー。次に正面中央の「関聖帝君」を含む5人の神様「五聖恩主」、右側の「関聖太子平」、最後に左側の「周恩師倉」の順番でお線香を供え、お参りします。

次はおみくじの儀式。境内に置いてある三日月形の赤い木片（聖）を二つ両手に乗せ、関聖帝君に氏名、生年月日、住所を告げ、願い事を一つだけ念じ、聖を投げます。

この聖投げは、おみくじを引いて良いかどうかを神様に確認する手続きです。投げられた聖が「表と裏」が出たら、本日その案件に関しておみくじを引いても良いというご神託。「表と表」の場合はおみくじを引けず、「裏と裏」の場合は神様に是非を伺う案件ではないとのお告げです。

さて聖投げで運よく聖の「表と裏」が出たら、たくさんの木の棒が入った缶を振ると、番号が書かれた棒が一本、その棒をもって事務所へ行き、その番号に対応したおみくじを受け取りこれで完了。

おみくじにたどり着くまでの長い儀式であります。今日もまた多くの商売成功を祈願する人々が参拝している台湾の行天宮であります。ぜひ一度トライされては如何でしょうか。



おみくじ儀式「聖投げ」の「表と裏」